



新型コロナウイルス感染症対応下における 地域と学校の連携・協働の取組事例

令和2年6月

文部科学省総合教育政策局地域学習推進課



「本物に触れる体験“こうみん未来塾”おうちでできる取組み」

(兵庫県 三田市①)

取組の概要や経緯

大学・高等学校・博物館、企業や地域人材など、市のあらゆる人材と協働して、子どもたちに「本物に触れる」体験講座を開催するこうみん未来塾。(三田市の偉人「蘭学者 川本幸民」と、「公民」協働のまちづくりにちなんで名付けられた) 講座やイベントを自粛するなか、子どもの体験機会を確保するため、ネットを活用した取組を実施。

内容

三田市ホームページにて、「こうみん未来塾“おうちでこうみん”」(<https://www.city.sanda.lg.jp/sukoyaka/outidekoumin.html>) と題し、こうみんプログラムの一部を自宅で体験できるツールを紹介。ペーパークラフトやプログラミングツール、講師自作の動画や、博物館所蔵の貴重映像など、幅広い分野の多彩なコンテンツが集約されている。



ポイント

- こうみんプログラムを提供している講師から、自宅でも体験できる、プログラムに関連するツールを提供してもらっている。
- 動画やペーパークラフト等の著作物は、提供先に承諾を得て、現物を提供してもらったり、掲載元のホームページのリンクをはるなどしている。

参加者の声

- 講師「講座やイベントを自粛する中でも、プログラムを知ってもらう機会になった。」
- 講師「子どもの学ぶ機会・体験する機会を提供する新たな手法が見いだせた。」
- 保護者「子どもの興味の幅が広がることが期待できる。」



今後の方向性

- 高校との協働で、オンラインこうみん未来塾を計画している。
- 今後も講師から提案があれば、ネットを活用した取組を検討する。

「放課後子ども教室独自のホームページ、SNSの立ち上げ」

(兵庫県 三田市②)

取組の概要や経緯

市内20小学校中16校区で開催されている放課後子ども教室では、各地域が主体となって、寺子屋・子ども食堂・工作・将棋・英語・卓球・剣道・ゴルフ・書道・茶道・太鼓・コーラスなど工夫を凝らした地域の先生講座や、農園・防災・ハロウィン・クリスマスなど地域を巻き込んだ交流イベントを実施している。
社会のあり方が変わってしまった今、子どもの学び、子どもとの交流を止めないため、ネットを活用した取組を実施。

内容

三田市ホームページにて、「放課後子ども教室“おうちで寺子屋”」(<https://www.city.sanda.lg.jp/outijikan0501.html>)と題し、算数が楽しく取り組めるプリントや親子クッキングレシピ、将棋の問題や家でできるトレーニング動画など、自宅で取り組めるコンテンツを紹介。地域の放課後子ども教室で休校支援をきっかけに立ち上げたホームページも紹介している。

ポイント

- 地域で活動されている方から、自宅で体験できる、地域の特色を活かした多種多様なツールを提供してもらっている。
- 市独自では既存の市ホームページでプリントや動画を掲載し、各放課後子ども教室では無料で作成できるサイトを利用している。
- 地域の方が作成した動画等の著作物は、製作者の了解のもと、ホームページに掲載したり、市のYouTubeチャンネルに登録している。

参加者の声

- 支援者「様々な活動を自粛するなか、子どもや保護者のために少しでもできることがあって、活動者自身が元気をもらっている。」
- 保護者「いろんなコンテンツがあって子どもの興味の幅が広がり、親子で取り組めば会話もはずむので助かっている。地域の人の温かさを感じる。」



↑ 地域の子どもの教室独自のホームページ

→ 支援者自作の動画配信



今後の方向性

- 現在も各放課後子ども教室から提案があり、今後も市のホームページや掲載内容が充実していくと予想される。
- 地域の放課後子ども教室の講座をオンラインで開催する企画がある。
- 地域の放課後子ども教室のホームページやSNSにて、子ども同士・子どもと先生がつながれる場や悩みごとを相談できる場を構築する計画がある。

「レッスンの動画配信による放課後子ども教室の取組み」

(岡山県 岡山市)

取組の概要や経緯

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、集まって練習することが不可能に。練習環境を失った家で過ごす団員のためにYouTubeでコーラスのレッスン動画の配信を始めた。「集まって歌う」ことが難しい状況が今後も続くと思われるので、各自が家で歌えるようにオンラインを利用して工夫して練習していく。

内容

放課後子供教室の指導者がレッスン内容をスマートフォンで録画したものをグループのみ閲覧可能にしYouTubeにアップ、活動に参加する子供の保護者に動画とURL情報をお知らせし、子供達に視聴してもらう。子供たちは各自、携帯やパソコン・タブレット等を用いて練習を行っている。

ポイント

- 動画の収録・編集には、専用機器ではなく、指導者のスマートフォンを使用。
- 通信は家庭のWi-Fi等を使用。録画用に、三脚にスマートフォンを固定するスタンドを購入。
- YouTube動画はコーラス関係者しか見られないように設定しており、デバイスは公共のものは使わないルールとしている。
- 毎回キーワードが隠されているなど子供の飽きない工夫が盛り込まれている。

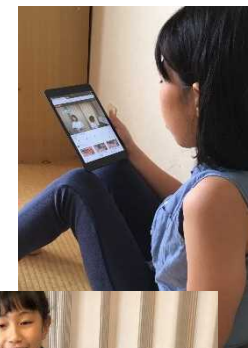
参加者の声

<児童生徒>

- コーラスの仲間と集まって練習ができず悲しかったが、家で先生のレッスンを受けながら歌うことができてうれしかった。
- 先生がわかりやすく編集をしてくれているので、おもしろい。

<指導者>

- 仲間と一緒に大きな声で歌える通常の練習に勝るものはないが、通常練習が再開されるまでオンラインレッスンという手段で心を繋いでいくことができた。



今後の方向性

YouTubeでの生配信やZoomを使用したりアルタイムでのオンラインレッスンを検討中。YouTubeでは一方的なレッスン内容になってしまうことや、Zoomでは音声の伝わり方にタイムラグが生じるなど課題がある。

※コーラスに使用する楽曲については権利処理を行ったうえで使用している。

地域と学校がともにつくる学習支援動画

(白川郷学園／岐阜県白川村)

取組の概要や経緯

- ◆ 義務教育学校である白川郷学園では、1年生から9年生までのすべての学年に地域コーディネーターが配置され、日頃から地域と学校がともに学校づくりを行ってきた。
- ◆ 学校の臨時休業中、学校では子供たちの学びを確保するためにオンライン授業を展開。
- ◆ また、学校再開時に「ふるさと学習」がスムーズに進められるよう、教職員と地域コーディネーターが打合せを進めている。

内容

- ◆ 7年生の学習について、教職員とコーディネーターが「今すぐできることはないか」「学校再開後に活かせるものはないか」と考え、『地域の担い手10分語り（動画）』と題し、地域コーディネーターが地域人材を選出し、動画を作成している。
- ◆ 作成した動画は休校中はもちろんのこと、学校再開後の朝の会や帰りの会での視聴を想定。

ポイント

- ◆ 学校に行かなくても子供たちの学びに関わることが出来る。
- ◆ コーディネーターが地域の方の自宅等を訪問して撮影するため、地域の方は関わりやすくなる。
- ◆ 地域の方の繋がりを最大限に生かした地域教材ができる。
- ◆ 地域学校協働活動への新しい関わり方のスタイルを確立し、より多くの方にその良さや意義を広めることができる。

参加者の声

- ◆ 「この状況の中で子ども達のためになるのであれば、恥ずかしいけれどやりますよ。」
- ◆ 「これまで学校とはほとんど関わりなかったけれど、こんなかたちで私たちの思いを伝えられるのであれば、とても嬉しいです。これを機に職場体験があればぜひ来てください。」



今後の方向性

- ◆ 動画視聴後、生徒が興味をもった内容については更にインタビューや体験などの学びを進められるよう、出演者にはコーディネーターから事前に依頼済。（オンライン等での学習も可）
- ◆ 今回の状況に限らず、動画による教材収集は今後も継続し、より多くの村民に子供たちの学びに関わっていただける機会としていく。

オンラインでの学校運営協議会の開催

(三鷹の森学園コミュニティ・スクール委員会／東京都三鷹市)

取組の概要や経緯

- ◆ 三鷹の森学園コミュニティ・スクール委員会は、3校（1中学校・2小学校）の学校運営協議会で、23名の学校運営協議会委員（うち2名は地域学校協働活動推進員）と4名の事務局員の合計27名で構成されている。
- ◆ 年度当初に学園の経営方針と各学校の経営方針の承認を行う委員会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により延期を余儀無くされていた。しかし、経営方針の承認をできるだけ早く行うべきとの判断から、地域側からの提案により一部リモートによる委員会開催が実現した。

内容

- ◆ 各校長と学校運営協議会会長、副会長、事務局、市教育委員会担当者が小学校に集まり、その他の委員はリモートで参加。
※ 小学校への出席者も3密にならないよう対策を講じた。
- ◆ 現在各学校が行っている感染症対策や具体的な学校の対応方針が共有された。
- ◆ 協議により、学園の経営計画に新型コロナウイルス感染症対策の徹底に関して盛り込まれることになった。

ポイント

- ◆ この状況だからこそその協議を行うことができた。
- ◆ 学校運営協議会の会長が中心となりWEB会議の環境を整えるなど、新しい取組に前向きな委員が多かった。

参加者の声

- ◆ 前例にとらわれず「今できること」を委員と学校で熟慮した結果、コミュニティ・スクール委員会で「新しい生活様式」を体現する素晴らしい取組になった。
- ◆ リモートであっても、顔を見て情報・意見交換ができ、結論だけでなく、そこに至る経緯も知ることができたことで、「お互いの信頼関係」が一層深まった。



今後の方向性

- ◆ 学校運営協議会のリモート開催の試みについては、今回の感染予防対策に限らず、今後も協議・情報共有等の手段としての活用や、コミュニティ・スクールの活動に、より幅広い地域人財の参加を促す契機となる可能性が考えられる。これらの可能性を踏まえつつ、今後について模索していく。

オンラインによる「地域とともにある学校づくり」研修会の開催

(京都府南丹市教育委員会)

取組の概要や経緯

- ◆「新型コロナウイルス感染症への対応が各学校園に求められる今だからこそ、学校運営協議会の必要性や地域との連携・協働の重要性について研修会を行いたい」という市教育委員会の強い思いにより、市内の幼・小・中学校長向けの「地域とともにある学校づくり研修会」を開催。南丹市は、H27年度から市内全小学校7校にコミュニティ・スクールを導入。その成果と課題を踏まえ、R2年度から市内全中学校にも順次コミュニティ・スクールを導入し始めたところで、今回のコロナ禍となったが、上記の理由で研修会を企画した。

内容

- ◆ コロナ禍において、子供たちをどのように守り育てるか、このような状況だからこそ地域・保護者・教職員が想いを共有してどう取り組むか、学校運営協議会をどのように活用するかについて、現役小学校長のCSマイスターから具体的実践を聞き、意見交換を行った。
- ◆ コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の実践者を各地に派遣し、各地の取組を後押しする文部科学省の「CSマイスター派遣制度」を活用し、CSマイスターが研修会にオンラインで参加した。事前の打合せもすべてオンラインで実施した。※CSマイスターのオンラインでの「派遣」は初の試み。

ポイント

- ◆ コロナ禍で広域の移動が制限される中でも一番必要なタイミングで必要なお話をしてもらえる講師を遠方から（福島県⇄京都府）招聘することができた。また、オンラインで実施したことで、講師の移動に係る負担が減り、研修会開催の時期を柔軟に調整できた。

参加者の声

- ◆ 同じ立場である校長先生のお話を聞くことができ、ねらいや悩み、障壁となるものなど、参考になる点が多々あった。先日の経営方針の承認を得たという経過を経ても、保護者・地域にしてみれば、やはり学校のことは学校が決めて進めるという感覚からは脱し得ない部分があると思う。しかし、大きな関心事についても、決定の過程に関わっていただくことで、説得力が増すとともに、協議会の認知度や関心も高まることを教えていただいた。



今後の方向性

- ◆ オンラインによる講師の招聘が可能で、その効果も十分になることが確認できたため、研修会の年間計画を立てる中で、適宜オンラインを活用し、全国の様々な実践者や有識者など、多くの視点を取り入れていく。
- ◆ オンラインによる研修と実際に集まって行う研修のベストミックスを模索していく。